

九州・沖縄 ミライの芽

変わり始めた日常①

学ぶ、食べる、遊ぶ――。人が充実した生活を送る上で、どれも重要な要素だ。時代や環境の変化に合わせて人は絶えずより良きスタイルを求め、行動に移していく。日常生活を送る上での魅力を高めることが九州・沖縄のミライにつながる。各地の取り組みを追う。

学び 世代や職業超え

「街を元気に」草の根教室



テンジン大学の授業は参加者同士の対話を促す仕組みを取り入れている(昨年11月、福岡市)

テンジン大学では様々なワークショップや体験型の授業を展開する

福岡市職員	防災の基本や新しい防災・支援を学ぶ
コーチング指導会社代表	リーダーシップについて学ぶ
老舗みそ屋の女将	みそ造りを体験しながら食生活改善などを学ぶ
北欧在住経験のあるOL	国際恋愛について考える
放射線技師	放射線の知識を深める
西鉄まちづくり推進本部	天神の再開発で街がどう変わるのか、などを考える

講師

生涯現役の人材育む

目標を掲げる。講師は起業家やアーティスト、公務員、NPO代表、神職など様々。ある時は生徒ある時は先生になり、ビジネスに役立つコミュニケーション術から地域の歴史や伝統、環境問題などを学ぶ。2010年の発足から約400回の授業を高校生からリタイア後の高齢者まで老若男女8千人が受講

してきた。起業家も輩出 現在是有名大学や米国のNPOが無料で数多くの講座を公開しており、知識習得の機会はあらゆる人に開かれている。そんな今、学びの場に求められるのは「知識の伝達にとどまらない異質な人の交流を促す仕組み」。運営するNPO法

人福岡テンジン・ユニバースティ・ネットワーク(福岡市)の岩永真一代表(36)は話す。「『学び』は年齢や職業など背景が異なる普段交わらない人たちが交差する入り口」となる。テンジン大学は起業する人材も輩出している。立ち上げ当初から協賛企業集めや組織作りを担った藤久保元希氏(33)は

13年に歯科向けの顧客情報管理サービスを展開するデンタライトを創業。現在では藤久保社長以外にもテンジン大学出身者3人が働く。「学生から定年退職した元社会人まで、ビジネスの現場とは距離がある人たちと交流できた。そこで学んだ市民の目線は起業した今に活きている」と藤久保社長は振り

返る。街に根付いた学びの場が新たな人材を供給する好循環を生み出し、街に活気を生む。年長者の「学び直し」を地域活性化につなげているのが、北九州市のNPO「里山を考える会」が運営する「生涯現役夢追塾」。50歳以上の働き手を地域の担い手に育てようと、米国流の組織運営方法「コミュニケーション・オーガナイジング」を採用。400人を超す人材が空き家再生、観光ガイド、留学生支援などを次々に立ち上げている。

九州・沖縄地域は高齢化に加え域外への人口流出にも直面する。人口が増えている福岡市も「20年以上市民でいるのは2割程度で、この街で育った人は少ない。魅力的な人材を増やすには『街が人を育てる』仕組みが必要」(テンジン大学の岩永氏)だ。学びを通じた人と地域の結びつきが地域に優秀な人材をとどめ、ミライを切り開くエ

大学も基盤作り 研究・教育が中心だった大学も、地域貢献を求め、ミライを切り開くエ

ンジンとなる。